

## 1. 主催者挨拶 小泉武夫全国地産地消推進協議会会長

この度、皆さん方のご支援とご協力を賜りまして、やっと食糧自給率も39%から40%にあがりました。たった1%というかもしれませんが、今まで下がり続けてきた自給率がまず止まったということが非常に大きなことで、それが横にいくのかな、下に降りるのかなと思ったら、上にあがってきたから非常にすばらしい歴史的なことではないかと私は思っております。

最近、地方でも食育ということがいわれてまいりますが、その食育と地産地消の取り組みが驚くべき進み方をしております。

昨日、福島県相馬郡飯館村の食育の現場をみて回りましたら、学校給食で出している飯館村産の農産物は60%を超している。全国で平均しますと23%くらいだと思いますので、そういうところも今どんどん増えてきているということです。

そして、非常に重要なことなのですが、全国の280か所で、ひとつだけ中学生と高校生にアンケートをしたそうです。「あなたはこの町が好きですか」という質問。そして1好き、2嫌い、3分からない、これを全国280か所で集計しましたら驚くべき数字がでまして、8割の子どもたちが3です。好きか嫌いかわからない。あとの2割の大半が2なのです。これからその町に育って、その町を守って育てていく子どもたちが、地元に対してそんな意識を持っているなんて、びっくりしました。

ところが学校給食で、地産地消の量が増えた今の飯館村のようなところに行きますと、この比率が、1がどんどん増えてくるということが最近わかったそうです。つまり地元の食べ物を食べさせることがいかに子どもにとって、その地域を好きになっていくかということを実に教えてくれているような気がします。その一つの大きな証拠は、私が小学校を取材しました高知県南国市の取り組みなどは、非常にその方向へいっているようです。

とにかく今、日本は海外に食糧の6割も依存しているということ自体、大変なことなのです。21世紀は食糧は戦略兵器だと思うのです。

そうしますとやはり自分たちで食糧をつくって、次の子どもたちに渡さなければいけない。日本はいますぐ手を打たなければならない。

また、海外に食糧を依存しますと、安心安全ということは本当に信用できなくなってきました。そういう意味からも早急にこの地産地消の運動を進めていくべきです。できればほとんどの市町村が昔のようにその土地がその土地でつくった農産物をみんなで食べて、心も体も元気な、子どももみんな好きな、そういうような国づくりのためには、農を中心とした地産地消というのが一番だと思います。

そういうことで、この全国地産地消推進協議会の果たす役割は、いよいよこれからです。今まではどちらかといいますと、いろんな勉強をしてみましたが、これからは実践法として、どのようなことをするかということが非常に重要なことだと思います。そういう意味で今日は非常に元気のある地方の地産地消を推進する会の代表のかたがた、ここに選ばれた方が来ています。その活動を今後大いに参考として、より一層地産地消活動をさせたく思います。

今日はよろしくどうぞお願いいたします。